

公開！2009年度版、年間応募トレンド(春～夏編)

Contents

- 〈01〉事務・アシスタント
- 〈02〉電話受付・入力業務
- 〈03〉軽作業
- 〈04〉キャンペーン・PR
- 〈05〉居酒屋店員・バーテンダー
- 〈06〉フードのホールスタッフ
- 〈07〉ファーストフード
- 〈08〉コンビニスタッフ
- 〈09〉販売
- 〈10〉アパレル販売

【調査概要】

調査対象データ:

- 調査方法: インターネットアンケート
- 調査対象: 北海道、関東、東海、関西、九州在住 15～34歳男女
現在、「高校生、短大・専門学校生、大学生、大学院生、アルバイト・パート、派遣社員、契約社員、無職の人」且つ「過去1年以内にアルバイト・パート、派遣社員、契約社員の仕事に就いたことがある人」
- 調査期間: 2008年3月
- サンプル数: 北海道938s・首都圏2888s・東海1879s・関西1904s・九州925s 合計8534s

「anReport」では、求職者のライフスタイル、意識の変化、また人材採用・戦力化、等の各種アンケート調査を定期的実施。労働統計等の資料と併せ、毎月一回「トレンドDATA」として発表をしています。

株式会社インテリジェンス an Report編集部 E-mail: an_report@inte.co.jp



公開！2009年度版、年間応募トレンド(春～夏編)

応募動向は絶えず動いている。求人者の動きが活発な時期もあれば、落ち着いている時期もある。ならば、それをいち早く読んで、採用計画に反映できれば、より効率的かつ効果的な募集が、しかも年間サイクルで可能となるはず。

そこで今回のトレンドデータは、まさに年間の応募トレンドを大公開。主要10職種について、4～9月までの各月ごとに、属性、勤務日数、そして給与区分で毎月の応募動向を調査した。

職種ごとに、どんな応募者がどの月にどんな動きを見せるのか。微に入り細に入りの調査結果をお届けする。

※弊社の2008年4月～2008年9月の応募データより

【今月のポイント】

- 応募がもっとも活発な大学・大学院生は総じて5月にピークを迎え、8月に下降する。また、アルバイトは 春先活発で夏以降に下降しやすい。
- 週1～2日が勤務日数ではもっとも応募が多い。割合の数値も比較的安定しているが、職種によっては夏場に落ち込むことも。
- 給与区分では、時給への応募が圧倒的に多い。しかも安定的で、時期を選ばず、採用計画をより効果的にさせるはずだ。

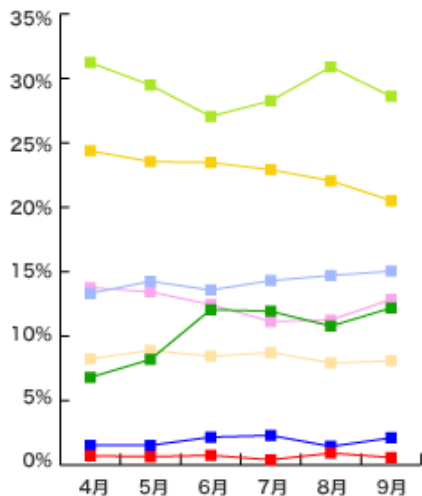
1 事務・アシスタント ～属性による応募動向の推移～

データ早わかり

「週5日以上、月給」に一定の人気

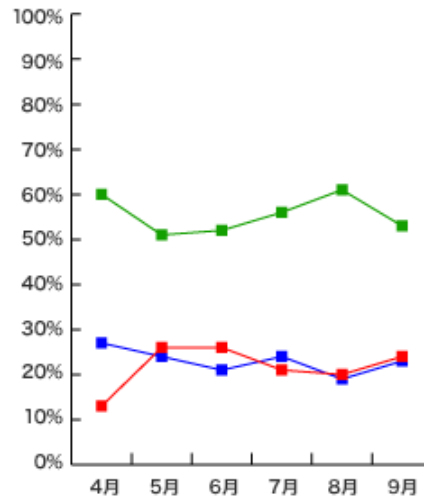
属性による応募動向の推移(図1-1)は、無職が30%前後と安定して多かった。アルバイトは4月をピークに明確な右肩下がりに。契約・派遣・正社員は、6月で少し落ち込むが、そこから徐々に増加した。勤務日数では(図1-2)、4～9月を通して週5以上の割合がもっとも多い。週1～2日は4月は12%と低いが、5～6月に増加し、週3～4日よりも割合で多くなる。給与区分では(図1-3)、時給が全期間で70～80%を保っている。月給は4月に26%と全体の4分の1を占めるが、5月にやや落ち込む。日給は総じて割合は低いが8月にわずかながら伸びを見せる。

図1-1. 事務・アシスタントの属性別応募割合推移



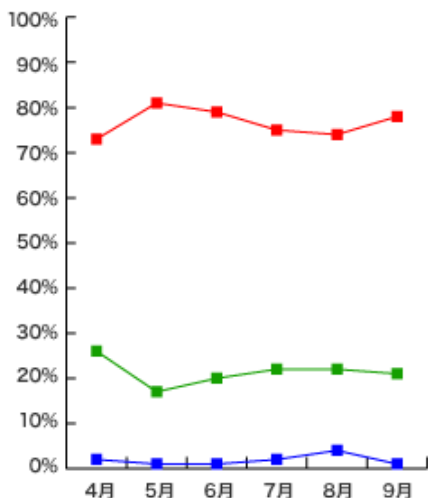
■ 高校生 ■ 短大・専門学生 ■ 大学・大学院生
■ アルバイト ■ 契約・派遣・正社員 ■ 主婦・パート
■ 無職 ■ その他

図1-2. 事務・アシスタントの勤務日数別応募割合推移



■ 週1～2日 ■ 週3～4日 ■ 週5日以上

図1-3. 事務・アシスタントの給与別応募割合推移



■ 時給 ■ 日給 ■ 月給

もっと詳しく

■属性／6月のわずかな動きに注目

月別では、6月に動きが見られる。無職と契約・派遣・正社員が割合を下げ、主婦・パートも減少傾向に入っている。逆に大学・大学院生は前月より4ポイント近く上げている。応募の増減でもっとも変化があり、また各属性のポイントの開きが縮まる月でもある。

■勤務日数／やっぱり週5日以上が安定的に人気

事務・アシスタントの希望者は、傾向としてより「週5日以上」を希望する傾向が強いが、それをそのまま反映した結果となった。とくに4月と8月が割合が高くなっている。週1～2日勤務の人材募集であれば、5月以降が効率はいいだろう。

■給与区分／月給の割合の高さが特徴

時期を問わず時給の割合の高さが目立つが、今回調査した職種の中では、逆に低いと言える。その背景として、月給による求人の方が多さに関係していると考えるのが、妥当だろう。

2

電話受付・入力業務

データ早わかり

契約・派遣・正社員はピークが9月

属性での推移(図2-1)は、アルバイトと無職がともに4~9月を通して20%前後を保った。大学・大学院生は5月と7月にとくに多い。契約・派遣・正社員はピークが9月。主婦・パートは5月をピークに減少傾向だが、9月で若干持ち直している。勤務日数(図2-2)では、週3~4日が4~9月を通してもっとも多かった。とくに5月は突出して多い。週1~2日は4月のみ週5日以上を上回り、5~8月は逆に大きく下回る。給与と区分(図2-3)になると、全期間で時給が占める割合が圧倒的に高い。月給は4月に若干アップするが、それでも4%程度。日給は時期を問わず割合は低い。

図2-1. 電話受付・入力業務の属性別応募割合推移

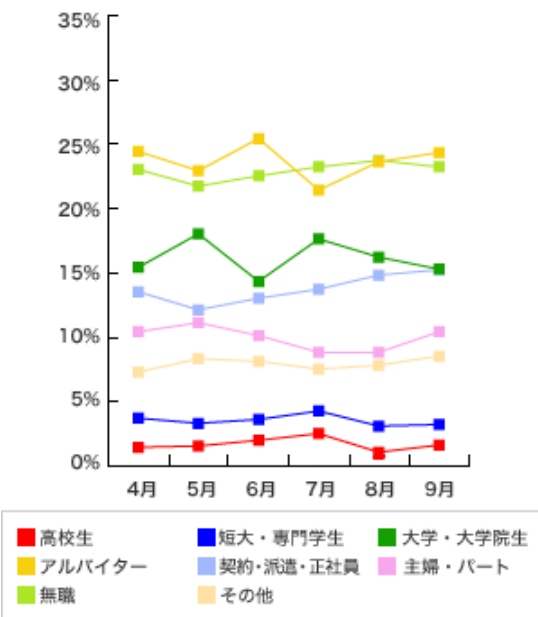


図2-2. 電話受付・入力事務の勤務日数別応募割合推移

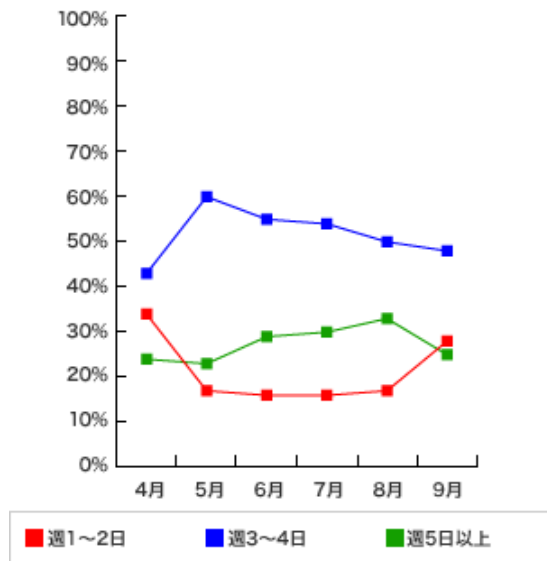
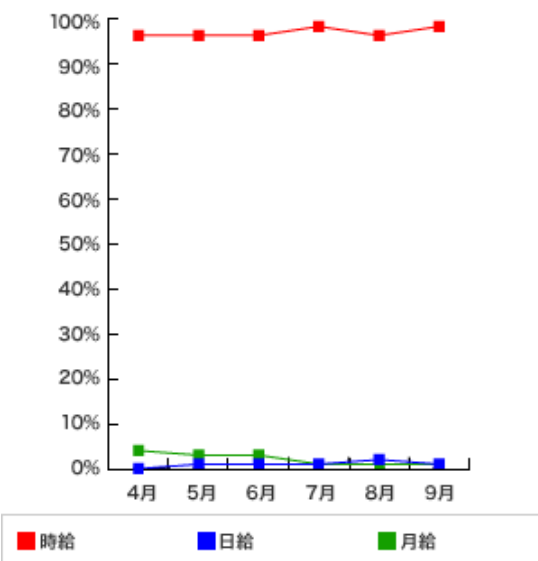


図2-3. 電話受付・入力業務の給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性/月により割合が激しく変動

大学・大学院生の人材が欲しい場合、やはり5月と7月がポイントと考えたい。また、アルバイトの応募は4月、6月が多く、5月と7月は逆に減る傾向が見て取れる。決して大きな動きではないが、募集が1ヵ月ズレるだけで、属性の応募動向が異なるひとつの好例だろう。

■勤務日数/週3~4日なら5月は割合が60%に増加

各勤務日数での開きは他職種と比較すると少なく、つまりは、どの勤務日数の募集もしやすいとも考えられる。とくに、4月、9月は勤務日数を広く採用しやすい時期だろう。週3~4日に限定するならば、一気に60%まで割合を高めた5月、またはそれ以降がより効果的だ。

■給与区分/メインは時給で決まり

ごくわずかな動きではあるが、月給は4~6月、日給は8月に伸びを見せる。両者の採用に関する時期的チャンスとさえいえば、この程度しかないのが現状。募集の給与区分は時給をメインに考えていくことが、結果的には効率的だろう。

3 軽作業

データ早わかり

日給で週1~2日勤務が定番

属性による応募動向の推移(図3-1)を見ると、大学・大学院生は4月から割合を高め、8月にピークに。高校生は7月に割合が高まるが、それ以外の月は総じて低ポイント。勤務日数(図3-2)では、週1~2日の割合が圧倒的に高い。ただ、週3~4日と週5日以上も秋に向け少しずつ割合が増加し、4月には週1~2日と80%以上あったポイントの開きも、9月には60%台までに縮まってる。給与区分(図3-3)では、日給の割合がもっとも高かった。とくに4月、6月、7月が高い。時給も40%前後で推移するが、日給を超える月はなかった。

図3-1. 軽作業の属性別応募割合推移

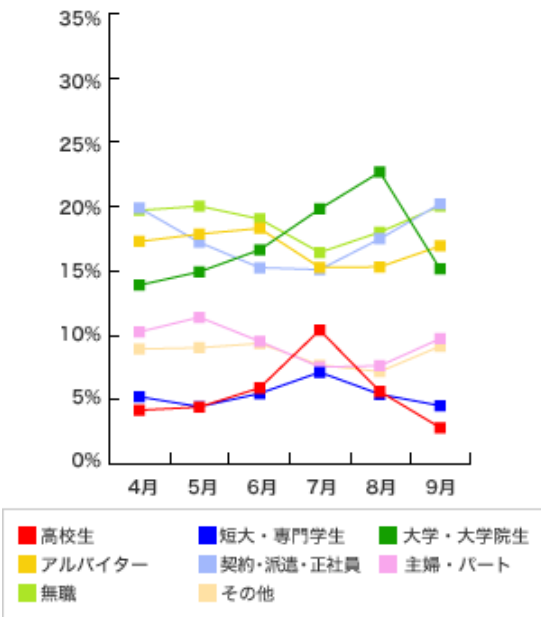


図3-2. 軽作業の勤務日数別応募割合推移

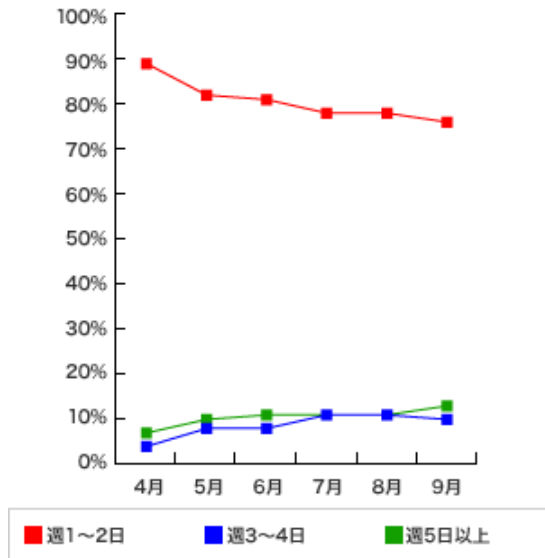
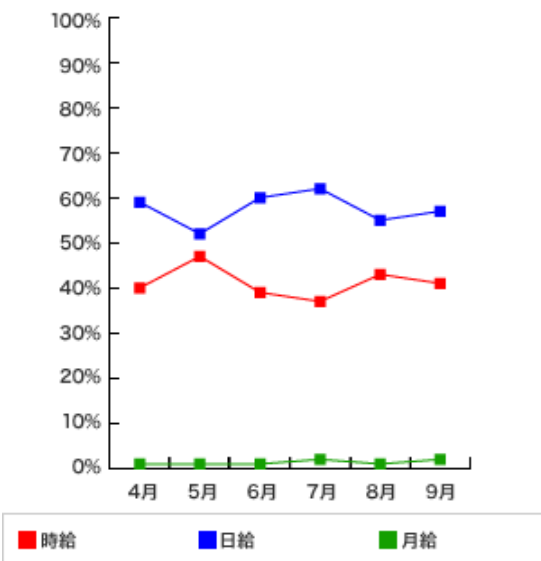


図3-3. 軽作業の給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性/突出せず、変動もせず

突出して応募の割合が高い属性がないのが、この職種の特徴だろう。採用プランのポイントとしては、大学・大学院生がピークとなる8月に注目すべき。また、夏休みを利用しての応募と考えられるが、高校生のピークは7月と1ヵ月前倒しになる点も押さえておきたい。

■勤務日数/週3日以上は9月がチャンス

4月の89%をピークに徐々にではあるが下降傾向は見えて取れるが、全体的に週1~2日勤務への応募が集中した形となった。となると、週3~4日と週5日以上勤務できる割合は9月に向け上昇傾向だ。

■給与区分/日給主導も5月には接近

今回取り上げている職種の中で唯一、日給がもっとも多い割合を示した。その理由はともあれ、日給での募集がもっとも効果的ということになる。時給の割合が5月にもっとも高く、また8月も高い。タイミングとしてはこの時期がひとつのポイントとなる。

4 キャンペーン・PR

データ早わかり

春先は時給メイン、夏休みは日給台頭

属性から応募動向の推移(図4-1)を見てみると、大学・大学院生が圧倒的に高い。とくに8月は半数近い42%を占めた。また、高校生は7月に応募割合が急増する。勤務日数(図4-2)ではどうか。4~9月を通して、週1~2日の割合が90%前後を占めた。結果、週3~4日と週5日以上は全期間で10%に満たない。給与(図4-3)については、時給が全期間を通じてもっとも応募の割合が高かった。とくに4月は全体の7割を占める。日給は逆に4月がもっとも低い徐徐に増加し、7月にもっとも高くなる。

図4-1. キャンペーン・PRの属性別応募割合推移

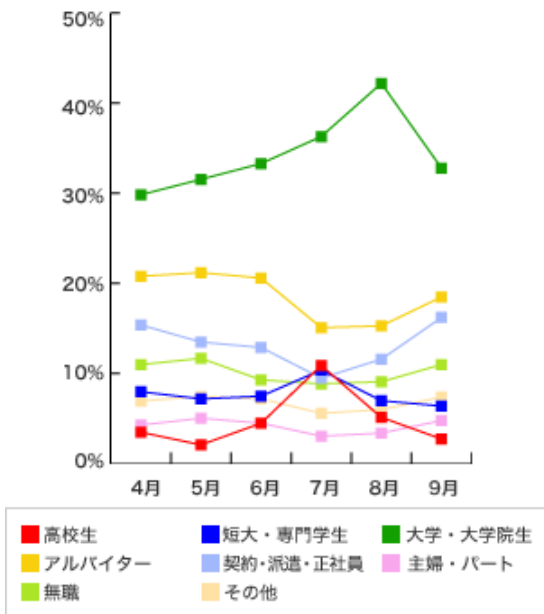


図4-2. キャンペーン・PRの勤務日数別応募割合推移

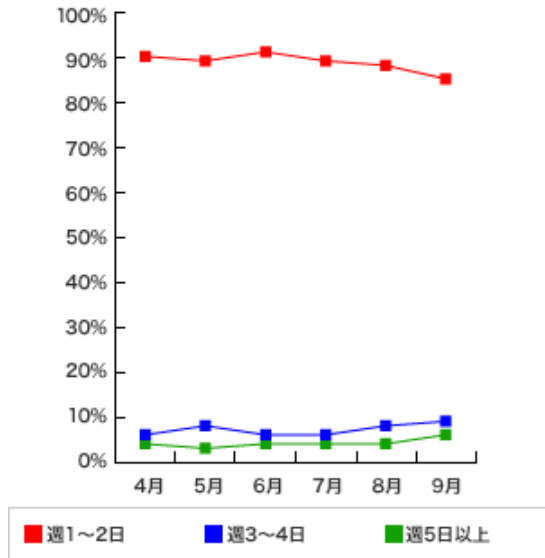
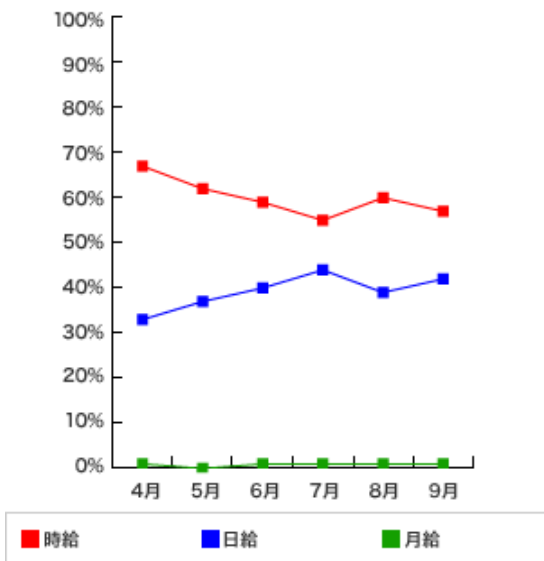


図4-3. キャンペーン・PRの給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性/大学・大学院生の独壇場

大学・大学院生に人気の職種であることが伺える。とくに7月~8月の応募の高さが目立つが、逆に言えば、その他の属性では、いわゆる夏休み期間の応募が鈍化するという側面もある。6月からの早めの採用準備が、その対応策としては効果的だろう。

■勤務日数/安定的かつ圧倒的な週1~2日

業種自体、短期、単発というイメージもあり、週1~2日勤務の採用はスムーズだろう。グラフでも、9月に向けて若干下降傾向にはあるが、単月では安定した形で他を圧倒している。対して、週3~4日と週5日以上勤務の人材確保だが、5月と9月が数値的にはいいが、それもごく小さな動きでしかない。早めに募集を仕掛け、ロングスパンで取り組んでいくことが肝要だろう。

■給与区分/日給の募集なら7月がもっとも効果的

7月がポイントになる。時給は4月が応募割合のピークで、7月にもっとも落ち込む。対して、日給は4月には時給との差が34%もあったが、7月には11%にまで縮まった。時給の募集なら春先をメインに、日給の募集なら7月がもっとも効果的ということになる。月給は全期間で0~1%ときわめて低い。

5 居酒屋店員・バーテンダー

データ早わかり

大学生とアルバイトの牙城、揺るがず

まずは属性の応募動向(図5-1)だが、大学・大学院生の割合が高く、次いでアルバイトとなり、他の属性とややポイントが開いた形となった。主婦・パートはすべての月で1~2%と低い。勤務日数(図5-2)は、週1~2日の応募が、4~9月のすべてでもっとも高かった。週3~4日は4月に30%を超えたが、8月は半減してしまう。給与区分(図5-3)では、時給が全期間で90%以上の高い割合で推移している。

図5-1. 居酒屋店員・バーテンダーの属性別応募割合推移

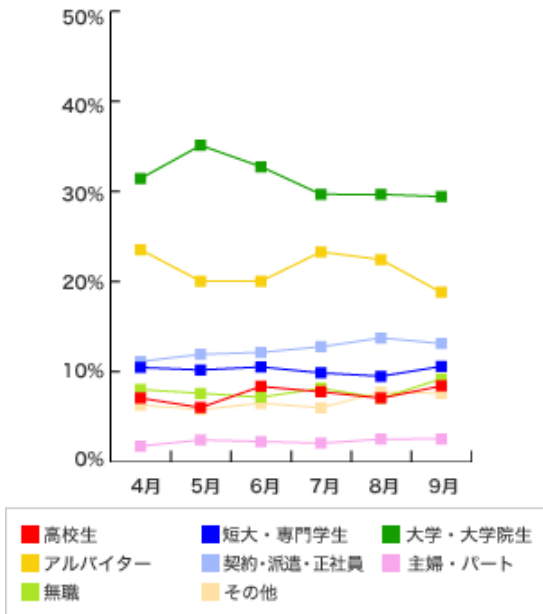


図5-2. 居酒屋・バーテンダーの勤務日数別応募割合推移

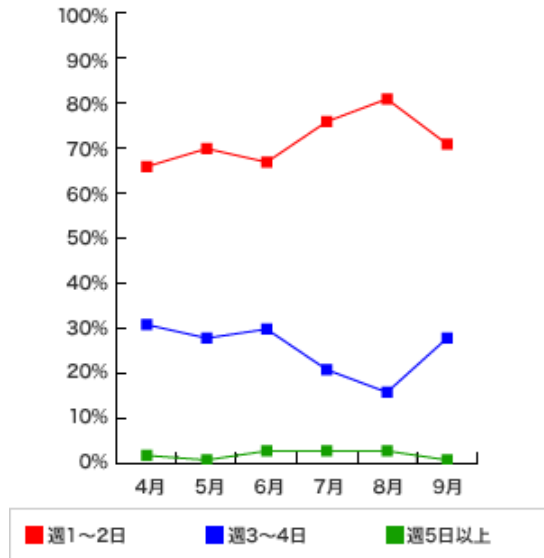
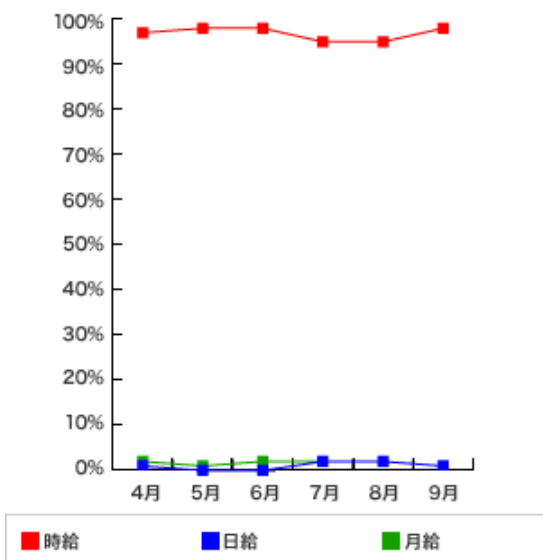


図5-3. 居酒屋店員・バーテンダーの給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性/夏は週1~2日勤務に比率がUP

一般に夕方以降からの仕事ということで、大学・大学院生が集中しやすい職種だが、それが数字にも表れている。興味深いのは5月がもっとも活発で夏休みにやや減少傾向となる点だ。アルバイトの応募動向が大学・大学院生と反対傾向にあるのは、その影響が考えられるが、結果的に夏休みにより採用しやすいということが言える。また、契約・派遣・正社員は8月、9月に若干上昇の兆しを見せる。採用時期として押さえておきたい。

■勤務日数/暑い日は勤務日数少なめで

週1~2日勤務への応募は全期間で60%を超えている。とくに、6月から割合は増加し始め、8月に81%と大きくアップする。週3~4日も4~6月は30%前後とそこそこの割合を示しているが、7月と8月の落ち込みには注意したい。夏休み期間中は、週3日以上勤務の人材確保は、6月までに済ませる方が効率的だろう。週5日以上は全期間で1~3%と、割合としてはかなり低いままの推移となり、急募という形は避けたいところだ。

■給与区分/7~8月にかすかな動きあり

飲食店関連は時給が圧倒的に多い傾向にあるが、これもその典型だ。ただし、7~8月の夏休みの時期は、長期間勤務が可能となる為か、日給、月給にもごくわずかながら動きが見られた。

6 フードのホールスタッフ

データ早わかり

フード店の特徴があちこちに

属性の応募割合(図6-1)から、大学・大学院生は20%後半～30%半ばで推移。アルバイトは安定して10%台後半で推移。高校生は7月に応募が急増する。勤務日数(図6-2)で見ると、週1～2日勤務の応募がもっとも多く、70%前後と安定している。次いで多かったのは週3～4日で、こちらは30%前後で安定。給与区分(図6-3)では、時給が4～9月を通じて97～98%とかなり高い割合を、しかも安定的に出している。結果的に、日給と時給はいずれも全期間3%以下。

図6-1. フードのホールスタッフの属性別応募割合推移

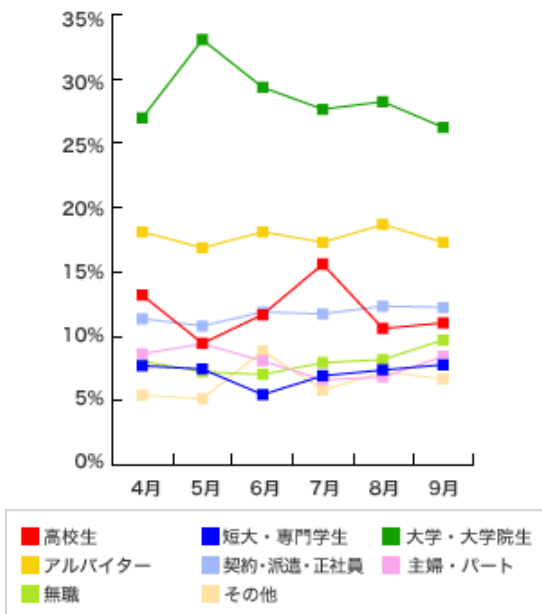


図6-2. フードのホールスタッフの勤務日数別応募割合推移

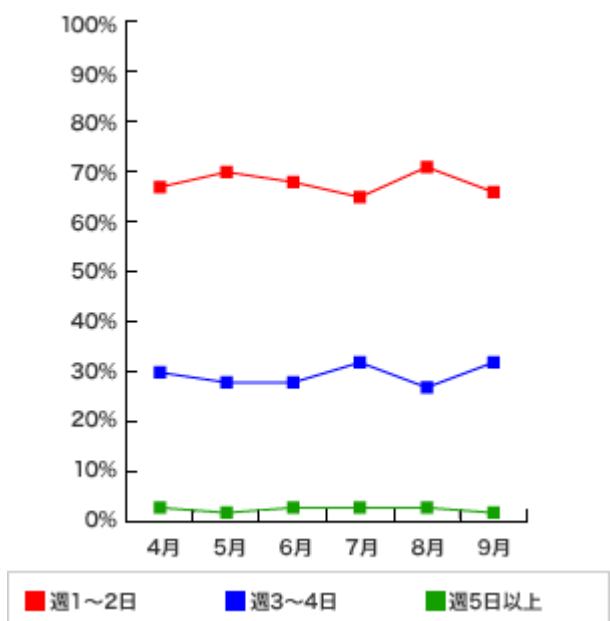
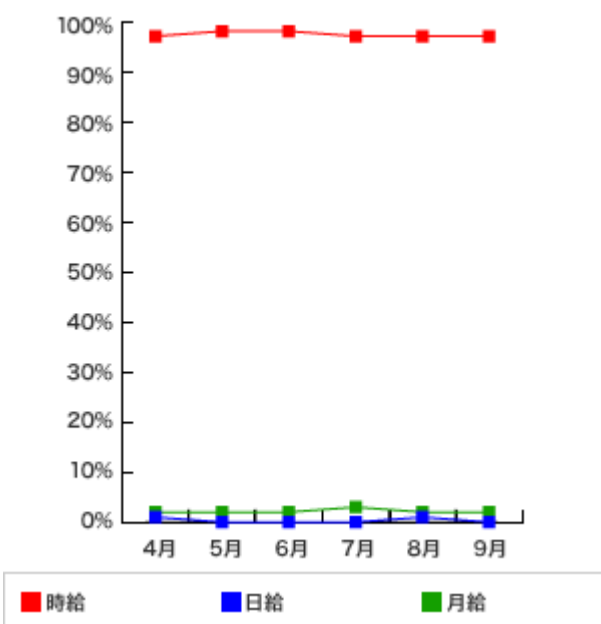


図6-3. フードのホールスタッフの給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性／飲食店関連は学生強し

飲食店関連は総じて学生に人気が高いが、この職種も中心は大学・大学院生となった。他の属性が20%を一度も超えないことから、常時30%前後である大学・大学院生の応募割合が高いことがわかる。また、5月にグッと応募動向が活発になるのも、飲食店関連による大学・大学院生の特徴だ。高校生は7月に加え、4月も活発である点に着目したい。

■勤務日数／長期戦で臨む週5日勤務

特徴は、どの応募の割合もほぼ一定であるということ。4～9月を通じて3%以下という週5日以上に関しては、急募的なことはなるべく避け、じっくりと募集していくしかないのではないか。

■給与区分／いつでも効果的な時給の募集

時給の割合は一貫して高い。一方日給、月給の割合は低い。

7 ファーストフード

データ早わかり

高校生が応募を制覇する夏

まずは、属性による応募動向(図7-1)の推移から。4~6月は大学・大学院生の割合がもっとも多く、7月~9月は高校生が割合でトップとなる。主婦・パート、契約・派遣・正社員は9月に向けて徐々に応募が増加する傾向にあり、結果として、9月は属性間の差が縮まることに。給与区分(図7-2)では、時給が4月~9月を通じて応募のほぼすべてを占めた。

図7-1. ファードのホールスタッフの属性別応募割合推移

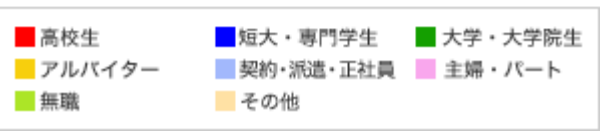
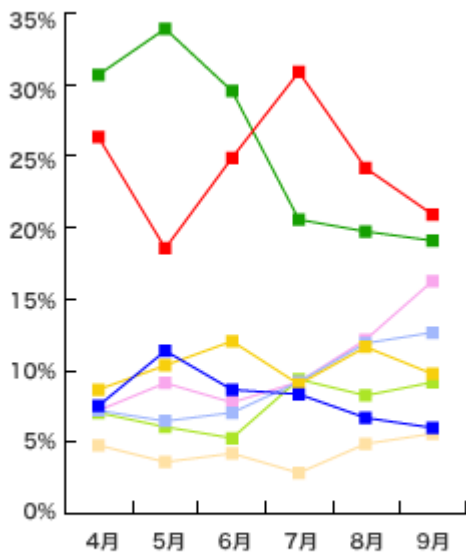
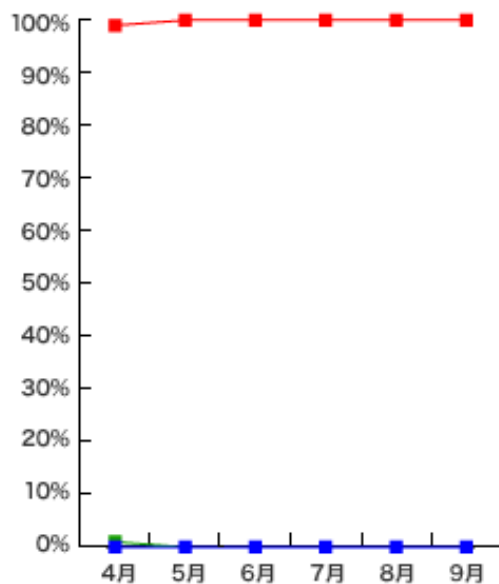


図7-2. ファーストフードの給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性／前半と後半で主役交代

4月~9月の期間で、前半と後半で最多割合の属性が変わる。この職種の大きな特徴だ。とくに高校生の多さは他の職種では見られない傾向で、人気のほどが伺える。また、大学・大学院生は7月以降、応募がグッと落ち込む点に注意したい。飲食店関連職種では目立たなかった主婦・パートも月を追うごとに増える傾向にある。

■給与区分／全期間、時給一色

給与区分での時給は、どの職種も総じて応募割合が高いが、ほぼ100%という数字からも、ファーストフードはその究極と言える。日給、月給での応募に関しては、その効果を期待するより、時給での採用に切り替える方が賢明だ。

8 コンビニスタッフ

データ早わかり

シフト勤務に求めるものが集約

属性別(図8-1)では、大学・大学院生が4月～9月を通じて割合がもっとも高い。次いで多かったのが、アルバイトと高校生だが、比較的安定した応募割合のアルバイトに対して、高校生は7月に突出して多く、また4月も多い。勤務日数(図8-2)は、週1～2日勤務の応募が、4～9月のすべての月で80～90%と高い割合を保っている。週3～4日も5月や8月は20%超となるが、10%を割る月も出た。給与区分(図8-3)で見ると、全期間、時給が圧倒的にその割合が高く、8月には100%に達している。日給と月給は、多い月でも1%しかない。

図8-1. コンビニスタッフの属性別応募割合推移

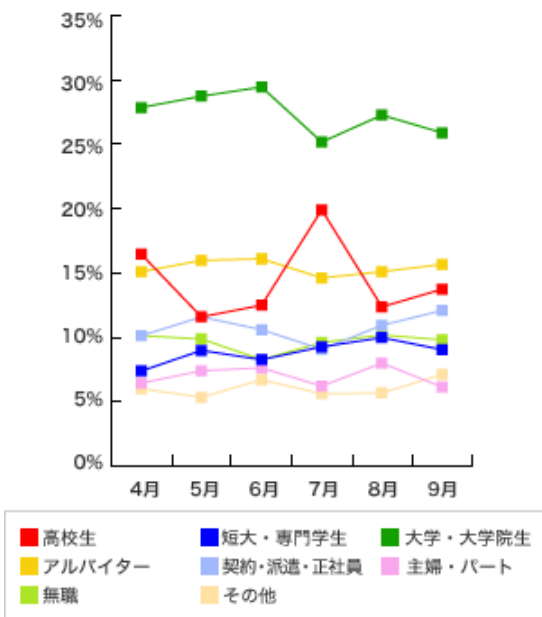


図8-2. コンビニスタッフの勤務日数別応募割合推移

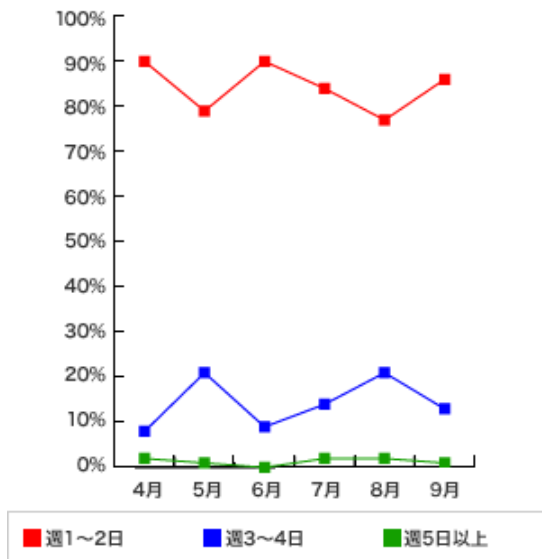
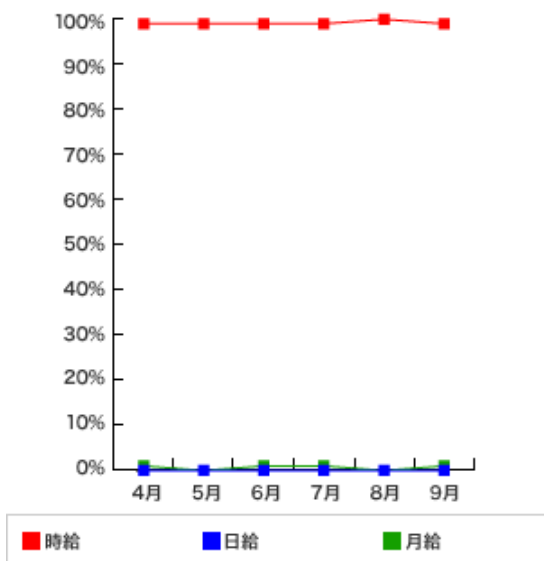


図8-3. コンビニスタッフの給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性／4月も元気な高校生

大学・大学院生が7月に応募が鈍るのは傾向はどの職種にも見られるが、コンビニスタッフはその中では変動が小さい点が特徴だ。その意味で、比較的安定して募集できる属性と言えるだろう。対して、応募の増減が激しい高校生は、7月の夏休みに入る時期に集中している。また、入学時、進級時の4月も多い点に注目したい。

■勤務日数／不安定な動向は先読みがカギ

週1～2日勤務は絶えず上位ではあるが、月による変動はかなり大きい。5月と8月はピークの4月や6月から10ポイント以上落ち込んでいる。効率を追求するのであれば、4月と6月に募集を集中させるのが得策。逆に、週3～4日は5月と8月が大きなチャンスとなる。週5日以上は低い。

■給与区分／ほとんどが時給

これだけ時給に集中したのはファーストフードとこのコンビニスタッフの2職種だけ。

9 販売

データ早わかり

動きなく、ずーっと同じ

属性別での応募動向の推移(図9-1)は、大学・大学院生がすべての月で割合がもっとも高いが、突出した多さは見られない。また、他の属性は月によって大きな変動があまりなく、4月～9月を通じて安定している。勤務日数(図9-2)ではどうか。週3～4日が40～50%をキープしている。週1～2日は4月のみ40%を示したが、5月に数値はダウンし、以降30%前後で推移している。週5日以上は20%台前半で安定。給与区分(図9-3)では、時給が90%以上を、4～9月の全期間で占めた。日給と月給はすべての期間で5%未満となった。

図9-1. 販売の属性別応募割合推移

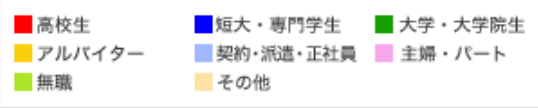
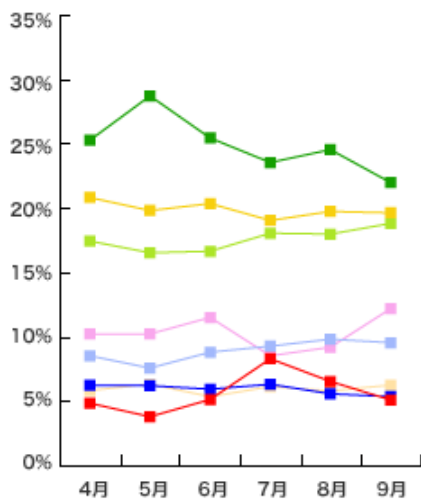


図9-2. 販売の勤務日数別応募割合推移

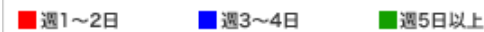
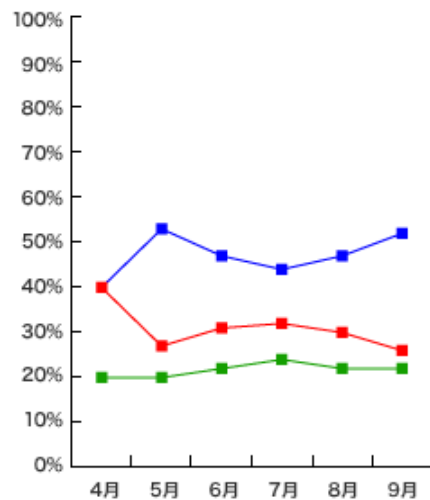
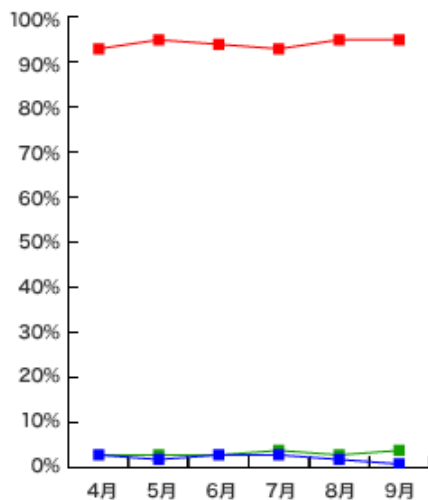


図9-3. 販売の給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性／主婦・パートには夏休み対策を

大学・大学院生の、飲食店関連職種で見られた「5月応募アップ」の傾向はここでも見られた。また、全体に動きが少ない中、主婦・パートが6月と9月に応募が増えている点にも注目したい。スーパーなど主婦・パートが戦力となりやすい職場では、逆にやや低調となる7月～8月の採用の対応策が必要になるだろう。

■勤務日数／変化の少ない中で好機を探る

各勤務日数で割合の変化は比較的少ないが、週3～4日では5月、8月、9月、週1～2日では4月が、割合的に他の月より応募については好機と考えていいだろう。週5日以上は夏休み直前の7月が比較的良さそうだ。

■給与区分／安定して時給が動きの中心

時給については、どの時期に募集してもそれなりの効果が期待できると考えていい。対して、日給と月給は3%程度で推移する状況である。

10 アパレル販売

データ早わかり

夏場に稼ぐ、過密に稼ぐ

属性(図10-1)では、3つにグループ分けができる。全体にもっとも割合が高い大学・大学院生、10%台半ばで推移しているアルバイトや無職、主婦・パート、そしてそれ以外の10%以下のグループだ。勤務日数(図10-2)は、週1~2日をもっとも応募割合は高い。週3~4日は7月、週5日以上は8月にもっとも割合が増える。給与区分(図10-3)は、時給が4月~9月を通じて高い割合を示している。7月に若干落ち込みはするが、それでも80%をキープ。日給、月給とも10%に達したことはなく、数値的には低調。

図10-1. アパレル販売の属性別応募割合推移

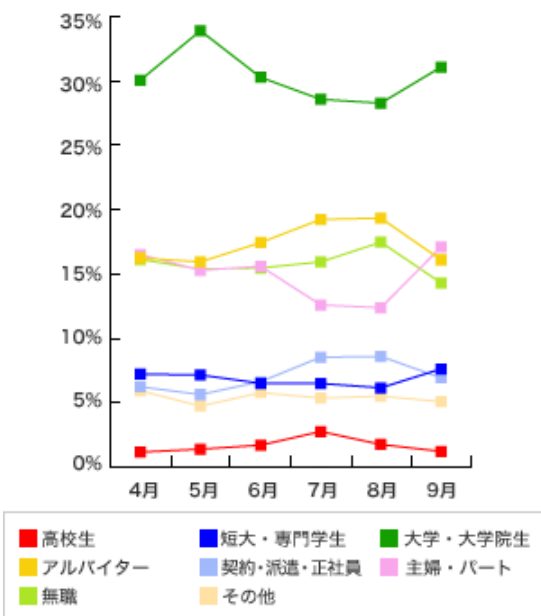


図10-2. アパレル販売の勤務日数別応募割合推移

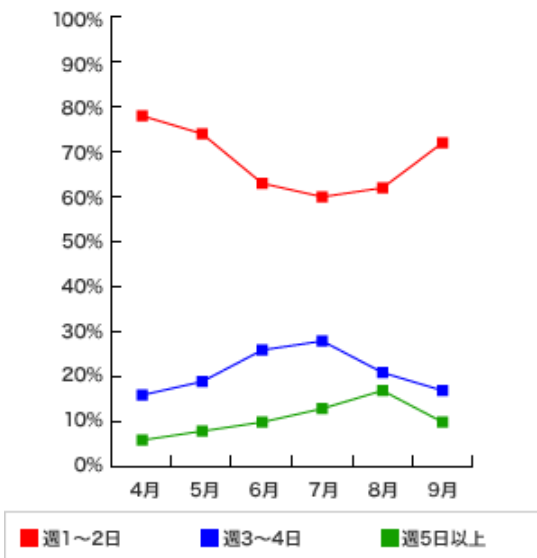
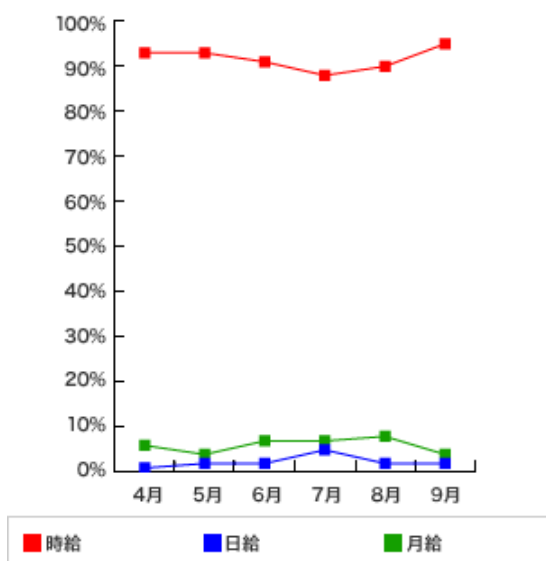


図10-3. アパレル販売の給与別応募割合推移



もっと詳しく

■属性/2回盛り上がる大学・大学院生

大学・大学院生は5月と、あと9月にも応募がアップする点が他の職種に見られない特徴だ。また、春にはほぼ同じ割合で推移していたアルバイトと主婦・パートは7月と8月に7%前後も差が開く点も、注意しておきたい。

■勤務日数/温度上昇とともに勤務日数も伸びる…!?

週1~2日は変動が大きく、4月は80%近くあったが、7月には60%にまで落ち込む。それに呼応する形で、週3~4日と週5日以上は夏休みに向けて割合を上げていくが、前者が7月ピークなのに対して、後者は8月ピークと1ヵ月ズレる点に着目。夏休み本番になるほど、より勤務日数を多くしたい。そういった応募者の思いが顕著に出たケースなのだろう。

■給与区分/月給の割合が高め

時給は安定して応募が多く、9月はとくに狙いめだろう。月給はポイントこそ、時給には遠くおよばないが、それでも今回の職種の中では事務・アシスタントに次いで活発となった。とくに夏場に向けての上昇は要チェック。日給はその割合で月給を一度も超える月はないが、それでも7月には5%に達し、結果、募集のチャンスとなる。

【今月のまとめ】

- 属性別では、全体にもっとも応募が活発だった大学・大学院生が、5月に応募のピークを迎える。（例外として、軽作業とキャンペーン・PRは8月にそのピークが来る）。高校生は、人気が集中するファーストフードやコンビニスタッフは7月がピーク。主婦・パートの場合、アパレル販売以外は、9月に向けて徐々に上昇する傾向がある。そういった時期による動きの特徴を採用プランに活かすことが、具体的な効果につながっていくだろう。
- 勤務日数では、週1～2日が10職種中7職種でもっとも高い割合を占めた。その中で、月によって波があるのはコンビニスタッフとアパレル販売。割合が高まる6月のタイミングで採用を行うのが効果的であると考え。週3～4日がもっとも多くの割合を占めたのは電話・受付入力事務と販売。ともに5月のピーク時は募集の好機と考えていいだろう。週5日以上がもっとも応募割合が高かったのは、事務・アシスタント。とくに4月、8月に割合が高まる。販売、アパレル販売、電話・受付入力事務、軽作業についても、8月にピークを示し、それが週5日以上の特徴でもある。
- 給与区分では、時給に応募が集中した。10職種中で実に9職種で最多。しかも、そのうち全期間90%以上だった職種は6職種に及んでいる。またそれらは、当然ながら月による変動がほとんどないのも特徴だ。日給への応募が活発化するの、軽作業とキャンペーン・PRの2職種。これらは変動も大きく、前者は5月と9月、後者は7月が募集の際のポイントになりそう。また、月給がある程度の割合に達したのは事務・アシスタントのみであり、その意味で、この職種ではすべての給与区分で一定の募集効果が期待できそう。